

「あさり姫プロジェクト」の実施について

～榎野川河口干潟における竹を用いた二枚貝育成イベント～

山口県環境保健センター

梶原 丈裕・恵本 祐*・上原 智加・川上 千尋

*現 環境政策課

Holding of “ASARIHIME Project” : Event of Nurturing Bivalves (Mainly Clam *Ruditapes Philippinarum*) by Using Bamboo at Tideland of Fushino River, Yamaguchi Bay, Seto Inland Sea

Takehiro KAJIWARA, Yu EMOTO*, Chika UEHARA, Chihiro KAWAKAMI
Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment
* *Environmental Policy Division*

第 22 回 自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会 要旨集, 9(2019)

榎野川上流域を含む県内の山間部では竹林面積の拡大及び伐採した竹の有効な利用方法が課題となっていたため、徳島県の「沖洲海浜楽しむ会」が考案した竹の中でアサリを1年程度飼育・観察する学習プログラム（竹の中に入れたあさを『かぐや姫』に見立てて、『あさり姫』と名付けられている）を参考に、榎野川上流域の竹を用いて榎野川河口干潟でアサリを保護育成する手法の検討を行った。

検討の中で、アサリ以外の様々なベントスが竹内部に混生することが明らかになり、生物観察会としての活用も可能と考えられた。

そこで、「竹の有効利用」、「アサリの保護育成」、「森川里海の連環を知る環境学習」を兼ねた一石三鳥の環境学習イベント（あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟）を榎野川河口域・干潟自然再生協議会主催で実施した。

平成29年7月に第1回イベントを開催し、竹の加工の後、竹筒を干潟に設置、平成30年6月の第2回イベント時にアサリの成長確認やアサリ以外のベントスの観察会を行い、参加者アンケートやモニタリングから、次の知見を得た。

【アサリの育成関係】

- ・竹筒内のアサリの生残数は、竹筒の構造や設置方法による優位な差はなかった。
- ・ネット破けや食害生物の侵入で、生残率が低下するため、ネットの管理が重要となる。
- ・成貝(3cm以上)になるアサリは少なく、網の破けが散見されるようになるため、育成期間は1年程度が適切と考えられる。

【イベント関係】

- ・体験型環境学習は参加者に好評であり、子育て世代をターゲットに学校や職場に広報することが有効であった。
- ・複数回干潟を訪れるため、干潟への理解が深まり、今後のボランティアに参加する人員の獲得方法としても有効と考えられる。
- ・持続可能なイベントのための資金獲得は寄付を募るよりも、イベント参加費等によって獲得する方が現実的と考えられる。